



33 宝船「長崎丸」 江崎栄造 一点

大正五年（一九一六）

玳瑁、木

総五九・〇×一〇〇・〇×九〇・〇

船尾に「長崎丸」と蒔絵で船名が記された、木製玳瑁貼の宝船。日輪に鶴が描かれた帆をかけ、水を切って進むこの宝船に積載された品々は二十七種、すべて制作当時の長崎県の主要な物産品である。それぞれに象牙の荷札が立てられており、船首の方に載せられたものでは真珠や珊瑚、磁器をはじめ、柑橘や鮮魚などの食料品のほか、石炭の大きな塊が目を惹く。船尾には、牛、馬をはじめ「SARDINE」（イワシのこと）の文字の入った缶詰の木箱、椿油や島原産の麦粉、そしてスクリューなどの造船機械までが所狭しと積み込まれている。

船首は想像上の水鳥である鶴首形で、彫刻された羽の各所に小粒の真珠が嵌め込まれている。両側面は六区画に分けられて、十二支の動物たちが揃って蒔絵で描かれ、この宝船のめでたさをよりいっそう高めている。玳瑁は部分によっては透明度が高く、そうした部材を使い分けて、緻密に細部まで作り込まれた作品である。

本作は大正天皇が大正五年に福岡県下に行幸の折、長崎県より献上された。作者はNo.6と同じ江崎栄造で、本作はその代表作のひとつと言えるよう。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections